

BASF、バイオプラスチックの大規模な生産拡大を発表

2008年4月24日

- 生分解性プラスチックの年産能力を7万4,000トンに拡大
- 再生可能資源を使用したプラスチックの生産も拡大
- バイオプラスチックの世界市場は、今後も20%の年間成長率を維持す

る見通し

BASF(本社:ドイツ ルートヴィヒスハーフェン)は、本社のルートヴィヒスハーフェン拠点で、生分解性プラスチック、Ecoflex(エコフレックス)向け生産プラントの大規模な拡張計画を発表しました。これに伴い、BASFの生分解性プラスチックの年産能力は6万トン追加され、7万4,000トンに拡大されます。拡張されたプラントでの生産開始は2010年第3四半期を予定しています。

エコフレックスは、従来のポリエチレンの特性を備えた石油化学系プラスチックですが、日・米・欧で認証された完全生分解性プラスチックです。

さらに、ルートヴィヒスハーフェン拠点にある新開発のEcovio(エコバイオ)を製造するコンパウンディング施設の生産能力も拡大します。エコフレックスの誘導体であるエコバイオには、トウモロコシ(メイズ)などの再生可能原料をベースとしたポリ乳酸(PLA)が45重量パーセント含まれます。PLAの含有により、エコバイオは、生分解性を持つだけでなく、その多くが植物由来となります。

生分解性プラスチックと植物由来プラスチックの世界市場は、年間で20%以上の成長を続けています。BASFのスペシャルティ・ポリマー・グローバル・ビジネス・ユニットを率いるミハエル・シュトゥンプは次のように述べています。

「生分解性ポリエステルとして高い成功を収めているエコフレックスと、エコバイオのイノベーションによって、当社はすでにこの成長市場に参入しており、今回の生産能力の拡大によって、BASFの地位は大幅に強化されます。また、これまで以上に効果的にお客様のニーズに対応し、供給体制の柔軟化を図ることができます」

エコフレックスとエコバイオいう2つのポリマー材料の供給を通じ、BASFはすでに、生分解性プラスチックと植物由来プラスチックの分野で世界市場をリードしています。これらの材料は、買物袋や堆肥化可能なゴミ袋、マルチフィルム、食品包装材

などの用途に使用されています。競争の激しい世界の材料市場では、生分解性と高含量の再生可能資源という2つの特性に対して、ニーズが高まっています。

■BASFについて

BASF(ビーエーエスエフ)は、「ザ・ケミカル・カンパニー(The Chemical Company)」を標語に掲げる世界の化学業界のリーディングカンパニーです。製品ポートフォリオは、石油・ガスから化学品、プラスチック製品、高機能製品、農業関連製品、ファインケミカル製品と多岐にわたります。信頼に応えるパートナー企業として、あらゆる業界のお客様のさらなる成功をサポートしています。BASFは、高付加価値製品と高度なソリューションの提供を通し、温暖化防止やエネルギー効率の向上、栄養改善、モビリティ向上などの世界的な課題の解決に重要な役割を果たしています。従業員数は9万5,000人超、2007年には約580億ユーロの売上高を計上いたしました。BASF のホームページアドレスは、www.basf.com、BASF ジャパンのホームページアドレスは、www.japan.basf.comです。